

第 8 号

稲化会報

早稲田大学稲化会

1990年2月 日発行

あいさつ

稲化会会長 高宮 信夫

今年も例年と同じく梅雨の季節がやってきた。65号館の自室で机に向かいながら窓外を眺めるとくもり空の下で、校庭の緑の木々はますます深みを増して雨にけむっている。

今年6月に理工学部創設80周年記念事業に関する原案がようやく固まりつつあり、これが実現すると校庭の様子も大分変化しそうである。

化学科は昭和48年4月開設以来順調にその足跡を延ばしてきたが、昨年の卒業生に対

する会社、官庁などからの求人数は800社を越える盛況であった。経済界、産業界の活況のおかげでもあるが、化学科の存在が世間に認められてきているからにはほかならない。

また今年4月には松本和子先生が教授に昇格され、今年ますます化学科を支える大きな柱として御活躍頂けるものと大方の期待を集めている。

稲化会会員各位の御健勝と一層の精進御活躍を切に願うものである。

教授随想

井口 馨

近頃、学生ロビーやバスの中で学生達の話をしていると、話題は専ら自動車とプロ野球、ゴルフばかりで文学とかクラシック音楽の話は聞いた事がない。いくら自動車時代、スポーツ時代とは言え、これでは次代の指導階級たるべき早大生として、あまりに知性に欠けた低俗大衆的な姿ではないだろうか。昭和30年代まで、まだ日本が貧しかった頃、学生は自動車はおろかオートバイにさえ乗れなかったが、精神生活は今より遙かに豊かであった。学生達は和洋の古典文学を読み、哲学を論じ、映画に人生の縮図を見たのであった。現代は新幹線とコンピュータの時代である。早く旅行する事が出来、莫大な計算をアツと言う間にやってくれる機械が出来て、人間はゆとりが出来たかと言うと、さにあらず、増大した仕事に追いまくられて、益々忙しくなっている。情報という言葉がやたらともてはやされ、パソコン屋と政府通産省は結託して、高度情報化社会の美名の下に、国民を情報の海に溺れさせようとしている。テレ

ビ、新聞、週刊誌も、娯楽、ゴシップ、主義宣伝の洪水を流し、ブラウン管の前に座った国民は主体性を全く失って、マスコミの意のままに踊る阿呆な大衆と化している心配は無いだろうか。たまにはテレビのスイッチを切り、新聞を放り出して書物のページを開き、歴史に人類文明の流れを觀じ、文学・哲学に人生の意義を考える事も必要と思う。若い諸君は楽しい事だけを追求するのではなく、苦しい事をも大いに追求して貰いたい。

伊藤 紘一

情報化社会について、ある雑誌に次のような趣旨のことが書いてありました。「ここに木綿、ナイロン、絹があるとす。工業社会では、商品価値は絹がもっとも高く木綿がもっとも低い。しかし、ファッションが木綿と結びつけば、それらが他二者より圧倒的に高い商品価値を持ち得る。このようなことの起こる社会を情報社会という。云々」 うまい説明だと感心しつつ、また次のことも考えさせられました。私たちは情報化ブームの中で、人間の思いつきや発想などのソフト面ばかりを重視してはいないでしょうか。木綿、ナイロン、絹よりもっと良い素材を作ることも依然としてきわめて大切ですし、それらがまた

重要な情報の一部となるはずで、ソフト面を強調するあまり、ものを創造することの重要性を軽視すれば、情報の質はどんどん低下し、世の中は活力のない退廃的なものになってしまうのではないのでしょうか。

先日の参議院選挙のある女性当選者が、テレビのインタビューに答えて、自分が政治に関していかにシロウトであるかをはずかしげもなく述べているのを聞いて奇異の感に打たれました。たしかに政治に限らずどんな分野でも、シロウトが知りすぎたクロウトの思わぬ陥穽を突いたり斬新なアイデアを出して、皆が大いに感心することはあります。しかし、その当選者がいつまでもシロウトであり続けるならば、選挙民に対して無責任であるというそりをまぬがれ得ないでしょう。この場合にかぎらず、最近世の中では人々がシロウトの言動に対して過度に寛容であったり、と

きにはもてはやしさえる傾向にあるようです。私にはこのような現象が、先に述べた皮相的な情報化社会への転換の軌を一にしているように思えます。ものを造る社会は、いわばクロウトの世界です。そこでは永い年月の間に培われた経験やカンが尊重されました。ところが、最近はこのクロウトが主役の座を降りたので、シロウトが得意になって自分の台詞をまくしたてる。そのような場面が世の中に氾濫しているように思えるのです。

化学はものを造る基礎を研究する学問です。大学における化学教育はその分野のクロウトを養成することをめざしています。上に述べた風潮に抗してこの本来の目的をとげるのは、なかなか大変なことです。場合によっては、情報化社会行きのバスに乗りそこねる危険を冒す覚悟が必要かも知れません。

博士号を取得して

宮野浩行

七員環非ベンゼン系芳香族化合物の合成と反応性に関する研究

一トロポン、ヘテロピン関連化合物を中心として一

早いもので、早稲田大学に入学して9年が過ぎました。この歳になると同期の人は勿論のこと、3年くらい下の人でも社会に出るのが普通であり、私が早稲田大学の自由な気風の中で未だに（学生のようなふりをした）助手として大きな顔をしていられるのは、大変幸運なことであると思います。お世話になりました諸先生方、諸先輩、それから協力してくれた後輩諸君に大変感謝しております。

私の大学生活を考えてみると、初めの3年間と比較して、後の6年間（毎日が戦争のような忙しい研究室の生活）の充実感はこのようにないものがありました。近年は、この多忙な（そうでもなさそうな人も時折見かけますが）生活に魅力を持つ人が多いらしく、化学科においても大学院進学者が増えてきており、大変喜ばしく頼もしいことを感じています。特に元気なドクターがいる研究室の活

気は万人の認めるところであり、また最近では会社の方でも博士課程の学生を取ろうという気運があるらしいので、アカデミックポジションにたとえつけなくても、自己の興味の向くまま、学を究めるために博士課程に進もうと考えるのも悪くない選択でありましょう。

この場を借りて、私なりの“ドクター進学にあたっての条件”を紹介しておきたいと思います。まず、①自分にとって居心地の良い研究室であること（家に帰りたくないと思うようになればしめたもの）、②なにより楽天才であること（必ず結果が出るに違いない、なんとかなるさ、という思い入れとあきらめは必要でしょう）、それから、③実験が好きなこと（3度の飯、自分の趣味、または寝ることと同じくらい）。さらに ORIGINALITY を出すことや、後輩に対する指導力はなくてはならないものですが、ドクターに進学してからでも身につけることは可能でしょう。もちろん学位を取るにはある程度の努力が必要なのは言うまでもありませんが・・・。

皆様の御活躍を期待しております。

研究室紹介

◇井口研

当研究室では量子化学および物性物理の理論研究を行っている。以下に各研究員の実態をレポートしてみた。ボート部で鍛えた肉体を活かしてパワフルな体育会系ゼミを行うS・O氏は最近の就職活動において、メーカーから銀行への突然の相転移を起こして話題を呼んでいる。筆者と同じ下町育ちにもかかわらず山の手の雰囲気醸し出すT・O氏は、アレルギー性鼻炎と車ぎらいという特性を合わせもつ。Y・M氏は最近歯医者に通院しているが、医者腕よりもカワイイお姉さんのいる病院を選ぶという選択律に従う好青年である。H・S氏は研究室内における存在確率が非常に小さいため、その挙動の解明が待たれるところである。野菜博士として有名なH・F氏はきゅうりがまがる原因は光合成のためのフォノンがきゅうり組織の格子間相互作用を伝達するためであるという大胆な仮説を打ち出した。当研究室のBrainであるK・S氏は量子化学、分子軌道法の神様と言われているが、その御利益を受けるにはやはり信仰であろうか。同じくBrainであるK・K氏は自らの研究とともに後輩の指導にも情熱を注ぐ、研究室保存の法則を成立させる兄貴的存在である。助手のT・Y氏は寡黙であるが学問に打ち込む真摯な態度は他者に感動を与える。S・O氏は量子力学からスッポンの養殖までを身につけようとする二重性をもつ人物である。祖先はガマの油売りというM・K氏はコピー製本から栄養飲料までを手がけて研究室内で商売をしては私腹を肥している。ものまね上手でもある多芸多才の持主だ。シュレディンガーグラスの似合っていたM・S氏は最近メガネを変えたが先輩をも圧倒させるパワーとバイタリティーは相変わらずである。以上のメンバーに筆者H・Cを加えた計12人が井口先生の御指導のもと日夜研究に励んでいるのである。

◇石原研

初代石原軍団の構成は、石原先生に4年が

3人。斉藤君は体育会でアイスホッケーをやりに今だに現役を続けている。パチンコが得意だが成績は悪い。國兼君はヨットをやっているが3年の時には全日本を制しているが当然成績は悪い。こんな2人を抱えて頭を抱える先生にとって救いとなるのが岩野さんの存在だ。就職活動と実験を両立し松本研と石原研を忙しく行き来している。石原先生については今なお多くが謎に包まれている。以上の4人が(たまに)全員揃うと非常に部屋が狭く感じられる。今後希望者が殺到した場合、平均評点7.5以上は首切りにするという説もある。

石原研では週1回ゼミがあり、輪読と論文紹介をやるが、事実上担当者先生との差で行われ、毎回力不足を痛感させられる。又、余りいい加減だと吐りの対象となる。それ以外の時間は実験をしている。内容は錯体の反応機構の解明だが詳しくは研究室まで。

いい所：先生がうるさいことを言わないのがいい。それに甘えてはいけぬのは勿論である。先生が色々な事を教えてくれてとても為になる。器具等は全てきれいで下したての物を使える。部屋もきれいだ。それに初代というのは何となくいい。

よくない点：狭い。物が少なく、他の研究室へ乞食にいかねばならない。マンガ禁止。先生は当然と思って言わない事が我々には当然ではない、ということが少なからずあった。松本研の酒井さんが時々教えて下さるが、うろろろすることもあった。でもこうやって苦労した方が身につくのではないか。失敗が多いけど。

要するに僕の心の不真面目な面と僅かばかりの真面目な面の両者を共に満足させてくれる所だ。僕はここへ来てよかったと思う。

(永原来いよ)

◇伊藤（紘）研

理工学部には名所がある。といっても斜塔ではなく65号館。何が名所というと化学と応化の研究室の山。これはいつ爆発がおきても中央が大丈夫の様な配置。知る人ぞ知る名所である。その中のさらに名所は五階にある。

私は一人階段を上っていく。四階を過ぎると形容のし難い猛烈な鼻をつくある香り——いや臭い。私は稲化会の役員である。会報の原稿を取るといふ重大な任務を帯びて一番の

名所「伊藤（紘）研」の前に立つ。

「稲化会役員ですが原稿を取りに来ました。」私は言う。すると中から M 氏が顔を見せ、「まあ、入りなさい。」と言う。私は中へ入る。

考えてみればそれがいけなかったのだ。M 氏の「君、何年生。名前は？」と聞かれて答えたのも良くなかった。素直な私は「一年の××です。」と言った。次の言葉は私の予想通りであった。「まだできてないよ。」が、しかし次の言葉は全く裏をかかれた。「君、原稿を書いて。」「……。」かくして私は今、原稿を書いている。M 氏は私に「同情はするけど助けないよ。」と言い、あちらこちらから「かわいそう」の声。しかし救いの手はどちらからも出現しなかった。唯一 Y 氏だけは優しい言葉をかけて下さったが、時すでに遅しである。

研究室の内容としては金属表面吸着種の研究——主にラマン分光法及び赤外分光法を用いて金属ポルフィン、ピピリジン、ブタジエン等の研究を電極系、コロイド系、蒸着系で行っており、新たにアルゴン・マトリクス法による金属ポルフィリンの解析及び光導波路を用いて将来的には LB 膜の評価、解析をおこなうとしておられるそうです。どの研究テーマにおいても、アイデア勝負で、教授の、他人の物まねや二番煎じは嫌いだというポリシーを、自称「まじめな M 氏」から教えられました。

◇ 伊藤（礼）研

1 研

我研究室は 51 号館の 12 階にあります。そこで某テレビ局を模して紹介したいと思います。

女『立松すわぁん。見て下さい。スヴー、ボコッ、ボコッ、こんなところに部屋があります。スヴー』

立『あー、ほんとだー、随分広い部屋ですねえー。ほんとにこんなところに人が居んだらうかぁー。』

女『ちょっと入ってみます。スヴー、ボコッ』

『あっ、人がいます。スヴー』

立『ほんとーだぁー。こんなところにも人が住んでいるんですねえ。人間というのは強い生物なんですねえ。』

女『立松さぁん。どーです、いいでしょお。コーヒーをおごってもらっています。スーボコッボコッ。でも水の中でコーヒーがほんーに飲めるんでしょうか？』

立『あっほんーだ。こんなところでもなしを受けるなんて。僕は人間の暖かさを感じました。そして水の中でコーヒーが飲めるという大自然の懐の大きさ、暖かさを感じたような気がします。』

女『立松さぁん。コーヒーのみながら、彼らは自己紹介を始めましたぁ。スヴーボコッ。このコーヒーを入れているのが、でっちの T 君です。その奥にいるのが S 君と M2 の Y 君、M3 の K 君です。その横には M2 の F 君で奥が D3 の I 君です。そして、奥の院に I 教授が居ます。随分居るでしょう。彼らは毎日楽しくすごしているんだそうです。スヴー、ボコッボコッ』

立『そーですか。僕はこの取材をとおして、人間の強さ、暖かさ、そんなものを感じたよおな気がします。いい人たちでした。』

久『立松さんどーもありがとうございました。でも小林さん、こんなところにも人がいるんですね。』

小『いやぁ、おどろきましたねぇ。』

（うなづく久米、ちょっと間が入る。）

久『コマースシャルの後は天気予報です。』

というわけで、なんだったんでしょうねぇ、この研究室紹介は。まっとにかく訪れる人にはいつも歓迎しますし、コーヒーだっておごっちゃいますいい研究室です。ちょっと寂しいけれど……。それでは Fin。

◇ 高橋研

「どうでえ〜調子は？」

「いやぁ〜あんまり良くないですね〜」

「次の学会は出せそうなものあるかい？」

「いやぁ〜今のところ無いですね〜」

「とりあえず申し込んでおけよ。なんとかなるだろう。」

「は〜わかりました。」

この会話から我々の地獄の日々が始まるのであった。現在、博士課程 2 名、修士課程 5 名学部 7 名が所狭しと実験に励んでおります。今年は「すご〜い」装置が導入されて「すご〜い」成果が期待されております。具体的にはピコ秒の分解能を持つ時間分解ラマ

分光装置、及び紫外ラマンを測定出来るようになる予定です。現在の研究テーマは従来より継続的に行なわれているフォトクロミック分子の光異性化機構、及び本年度より光合成初期過程を解明する目的でクロロフィル分子の研究に手を出し始めました。またタンパク質と色素分子の相互作用を研究しております。また励起状態のスペクトルを測定して分子構造、電子状態に関する研究も行なっていますが、「励起状態は非常に難しい！」ことを痛感させられており、理論不足を痛感している毎日です。特にこれからの化学は狭い領域にとらわれずに物理・生物的な発想、方法論を用いて幅広く研究していく必要があることを強く認識しつつあります。

さて、研究室の話題ですが、春の京都の学会に行った時に、夜の寒風の下で賀茂川を横断したK君、自転車で階段を下りようとしてこけて足を傷めたK君、朝六時頃酒の臭いを漂わせて登場したK君、徹夜が大好きで3日3晩実験(?)しているK君、酒を飲みに行くときッポを振って喜ぶK君、少年サンデーに入賞したマンガ家N君等、毎日楽しいことがあり、研究にも熱が入る日々を過ごしています。

◇ 高宮研

高宮研はケイ素を主鎖とする高分子に様々な有機官能基をつけその触媒的性質を研究しています。炭素と比較してケイ素の高分子は主鎖が柔軟でコンフォメーション変化が容易なのでその触媒的性質が期待されます。高宮研は院生・学部生を合わせて12人おり、以下に紹介します。

唯一人のDのNさんは明朗快活な人で高宮研を熟知しており研究室の顔ともいえる存在です。M2は4人いまして、Aさんは後輩をよく見てくれる優しい人です、またあるB4のある方面の上司でもあります。Kさんは普段でも腕力のある人ですが酒を飲めばそのパワーは普く発揮されます。YAさんはのんびりした人です、YAさんは真面目な人でよくパソコンの前でNNYと入力してます。まだ8は使えないようです。Yoさんは実験に関してはとても厳しい人ですがそれ以外では明るく面白い人です。M1は2人いまして、Asさんは家が小田原と遠いにも負けず朝早

くから実験をこなしています、弱点は酒と先輩達のようなです。YAjさんは野球帝国高宮研の主力ピッチャーです、口グセの“若干”“そうすっか”は研究室のスタンダードフレーズとなっています。そして学部4年は5人もいまして、A1は恐ろしく物を壊す男で既に被害金額は10万円に達します。Iは真面目でお調子者です?!押しの強さは見習うべきものがあります。NAは入室1ヶ月目にして“社長”の異名をとった男でエステティックサロンによくいく、お洒落な奴です。Hはツーショットにかけて彼の右にでる者のいない強者です、彼の使うアイテムは⑦七つ道具と呼ばれてます。Mさんは高宮研の紅一点で、高宮研もこれで大人しくなるかとおもったらまるで変わりません。また研究室生の他に講師として上野先生と池田先生にきて頂いてます。そして温厚で柔和な高宮先生を奉り、今日も高宮研はアクティブに活動してます。高宮研に興味のある人は是非65-509に遊びに来て下さい、茶と漫画とTVがまっています。(文貴 A1)

◇ 多田研

多田研究室は同じ化学科の有機研である新田研に比べると、ある意味で対照的な研究室であると言えるかもしれません。比較的いつも静かなので、じっくり研究や勉強にとり組みたい方には恵まれた環境と言えます。また、今年から、新田研のドクターの方がひとり多田研に來られ、試薬や実験器具の貸し借りはもとより、飲み会をはじめとする行事等で増々新田研との交流は深くなりました。

さて、研究室の中心、多田先生は大変人生経験豊富で、研究のこと以外でのお話もとても為になると思います。ただ、残念なことに今年は副委員長のお仕事がお忙しいので、研究室には時々しかいらっしゃいません。

多田研のメンバー構成は、ドクター3人が1人マスター2人が2人、1人が2人、学部4人が4人です。個人実験なので、責任は重いかわりに、自分で自分の時間管理ができるところが良いと思います。

以下は個人的感想ですが、研究室に配属される前後で大学に対するイメージや、自分の生活がガラリと変わった様な気がします。研究室に入ってからのホントの大学生活なのか

もしれません。

多田研の具体的な実験内容としては、補酵素 B₁₂ の簡略体である種々のコバロキシムの合成、およびその反応への応用、補酵素 B₁₂ 関与の転位反応中間体としてのラジカルの挙動、およびその ESR 測定、含窒素複素環化反応、含窒素ヘテロ環補酵素モデルの合成、及び複素環化合物の合成などをやっています。

日によっては大変な臭いがしますので、ころあいを見計らって遊びに来て下さい。歓迎します。

◇新田研

新田研です。今年の新田研は、新田信教授のもと、大小(?)合わせて12名の若き(?)精鋭を揃え日夜研究にいそしんでおります。特に今年の場合、マスター以上が8名という頭でっかちの編成で4年にとっては楽園のような環境です。その12名とは、以下のとおり。まず助手の宮野さんは当研究室のブレインとして怒濤のアドバイスをくれますが、実はモノポリーの王様としても有名です。赤いトランクスが似合います。精神的若さを発散させるD3の飯野さんは、研究室での朝をピンクフロイドで迎える強者であります。M2の浜松さん、杉山さんは、片や元気はつらつオロナミンC、また片やトータルコーディネーターとして当研究室の雰囲気を引きしめております。MI軍団は、関取り顔まけのボディータを持つ森を筆頭に、人間ギャグマシーン(森も同様)であり、サッカー野郎の川地くん、叫ばせたら日本一、辛いものなら何でも来いの大槻くん、そして当研究室の花、そのかわいさで皆の心をなごませる女王さま(?)の大沼さんといった最強のラインナップ。B4も負けてはおらず、「大丈夫ですよ」「平気でしょ」が合言葉のマイペース男、カマゾーこと構くんを始め、最近やや投げやりだがやる時はやる、言う時は言う、の赤荻くん。もしかしたらコーラとカップめんがなければ生きていけないのでは?という宮下くん。さらには、元ボート部(!!)の栄光の3年間を経て、そのキュートなスマイルとは裏腹なハードな毎日を平然と過ごす杉田嬢の4人が活躍中です。

こんなにぎやかな集団を、毎日青すじ立てで優しく見守って下さるのが御大、新田先生

であります。いつも迷惑ばかりかけて申し分なく思っていますが、最低あと1年半程続きそうなのでよろしくお願いします。なお、現在当研究室では会員を募集中。入会すると、毎日コーヒーが飲める上に、楽しいジョークが聞ける特典つきです。

◇松本研

第一場 松本研の朝

ラジオ体操第いちー。チャンチャーカチャンチャンチャンチャン、チャンチャーカ……

松本研の朝は、こんなに早くは、ない。(舞台中央の丸イスに座る男J。ジャージ姿の男K₁、卓球のラケットをふりつつ上手IN) K₁:今日は暑いぞ。ジャッキー、クーラーだ!

J:そうですか、いやいや。(間) >暗転

第二場 短冊型ハンバーグ

S:ジャッキー、ハンバーグ1.5cm巾に切つて食うかあ?(見ればぴったり1.5cm巾の筋)

J:いっ、いーじゃないですか。他人が何食べようと。(見つめあう) >無理矢理暗転

第三場 昼下がりのジャッキー

K₁:コーヒーが飲みたい。(アクセント注意)

F:私は医者に行ってきますから。

S:おっ、ジャッキーが入れちゃう?

(Jフィルタにネスカフェゴールドブレンドをふり入れる。コーヒーを配る)

S:いいみたいー。(M. CF曲)

H:んー。優秀だぁ〜。(カニになる)

J:いやいや。(沈黙〜ロッキーのテーマ)

第四場 スポーツは楽し〜大脱出

K₁:でんすけ、新スポターイム。走るぞ!

D_{なげ}:えー。ピキニの水着しかありませんよ。謎の中国人:大変なことになっちゃったあるよ。

K₂:ダメ。疲れるのは体がイヤって言うの。ラクが一番。ラ・ク

(G・G^{グレッグ}上手よりIN。6時のチャイム)

G:それじゃ、私帰りますから、よろしく。

(上手にOUT。Jそわそわする)

U:あれ?ジャッキーお帰り?

J:いやいや、違いますよ(白衣、手ぶらでトイレに消える。なーんだ。漸らくして)

T : 遅いな。ジャッキーのカバンが無いっ！
U : ロッカーも空だ、やられたっ。
新宿高層ビル群の彼方より幽かに声が響く
J : いや、いや。(夕日に染まるビル～暗転)
第五場 無機錯体の合成及び触媒機能
キャスト、スタッフ募集中 見学自由

他研究室の印象

各研究室の印象を他の研究室の方々に伺いました。

◇ 井口研の印象

- ・さわらぬ先生にたたりなし。覚えられませんよーに。ナンマイダブ
- ・空気がきれいでかしくて静か
- ・theoretical
- ・あふれる記号
- ・化学科とは思えない空気のきれいな研究室です。田村正和がいるそうです。
- ・空気がキレイでヒルネに良い場所
- ・コンピュータ多し。ゲームできてよいのう。
- ・最近ドアは、開いています。それでも何やってんのかわからん。

◇ 石原研の印象

- ・Fresh!! Young!!
- ・あたらしくてきれいでこじんまり
- ・secret
- ・あふれる若さ
- ・化学科内で最高の設備、清潔さです。今年できたばかりの狙い目の研究室です。
- ・Freshly distilled…。
- ・ニューフェイス!! 若くてよい。
- ・おともだちっ

◇ 伊藤（紘）研の印象

- ・よくわかりません。
- ・先生がテニスプレーヤー
- ・intelligent
- ・あふれる情熱
- ・宇井さんがいなくなったら静かになりましたね。でもM・Mコンビが…。
- ・先生がダンディー。
- ・サロン・ド・伊藤の噂は本当か？
- ・静か。時に漫才コンビ登場。

◇ 伊藤（礼）研の印象

- ・情報なし
- ・先生を2度見たことがある。私ごとですが。
- ・遠くて不思議でわからない。
- ・あふれる謎・とっきん元気？
- ・空気のきれいな高いところです。
- ・辺境の地につき、詳細は知らない。
- ・広瀬川、流れる岸辺…。
- ・時ちゃんは元気かなあ？？

◇ 高橋研の印象

- ・クーラーが効いている
- ・先生を知らない人が石原研に○人います。
- ・人がいっぱいハードでパワフル
- ・powerful
- ・阿部さんあまりあばれないで下さい。長澤くん旗もってこないで下さい。
- ・人がウジャウジャ居る。大金持ち。
- ・当研究室と並んで女性多し。
- ・理論も実験も激しい研究室。

◇ 高宮研の印象

- ・ハイホー！
- ・先生が…。えーと先生が…
- ・ハードでパワフルで野球が上手
- ・a shot
- ・あふれる体力
- ・powerful and exciting
- ・4年がすごそう。野球強すぎ。
- ・いつも漫画と包丁を有難う。

◇ 多田研の印象

- ・目鼻にしみる
- ・先生が出席をとる。困った人はさて
- ・朝が早くて夜がおそくてくさい
- ・tasty
- ・あふれる試薬
- ・同じ有機研として私達は“Give and Give”してもらってます。
- ・今年は若干、地味かな？ 器具貸してね
- ・Mr. うえたけ

◇ 新田研の印象

- ・臭いのカーテン
- ・先生がやさしい。有機Cをレポートに

してくれてありがとうございます。

- 臭いがすごくてにぎやかでハード
- smell
- あふれる芳香
- 化学科のきれいどころがそろっていて羨ましいと思います。
- The boss is always…… ??? ? ? ?
- ハードだけど美人がいる所

◇松本研の印象

- 元気印
- 先生がきれい。だけど無慈悲。
- 涼しくて暖かくて楽しそう
- elegant
- あふれる陽光
- ほとんど高宮研と同じ穴のムジナといっ
ていいでしょう。
- 高価な物が買えてうらやましい
- ドクターを筆頭に勢いあり。

オリエンテーション感想

○1年生

27人という極少数で編成された'89年度1学年のうち、オリエンテーションに参加したのは23人。かえって4年生方々とどっちがメインなのか(いや、4年生のために、という噂も)わからない。

初日、雨。おまけに濃霧のなか(毎度のことだそうで)ソフトボールにサッカーと、後で思えばこの時既にひいていた風邪をこじらせ独り暮らしの私は2日間も大事な大事な(?)授業を休んでしまったのだった。

他の学科のオリエンテーションではきちんと教授陣の講義時間があったというのではないか、まったく。更に追い討ちをかけるようにAlcoholと翌朝までの“大貧民”(ず〜っと)。おかげでたった23人しかいない連中の顔はほぼ網羅したが、喉はつぶれ体はだるい。翌日の朝食はなんとか喉を通ったものの、今後

の予定をこなす気力はない。と思いきや、皆で写真取って解散。私は一体何をしにきたのだろう……。風邪さえひいていなきゃもっと騒げたのに。

意識も朦朧としている私はいったん実家に帰ろうと本庄駅で下りた。駅前通りをテクテク歩いていくと、何と猛然と前方から救急車が向かってくるではないか……暫し時が流れ……救急車が通り過ぎてようやく耳が正常化したところへ、両手に買い物カゴをぶら下げ、エプロン姿の40過ぎのオバサンがこうつぶやいた。

「ひさしぶりに間近でドブラー効果を味わったわい。」 これマジ

理工の学生さえようわかっていない“ドブラー効果”と、このような風体のオバサンとのmiss matchさに、二億円を図らずも竹藪に捨ててしまった通信販売会社社長と同様、一抹の不甲斐なさを胸に感じながら、一路家へ歩く私であった。

化学科実験室より

神戸久志

化学科実験室は、学科所属の実験室で専任一名で理工学部では一番小さく一番新しい実験室です。当実験室では、化学科三年生の有機化学実験を行っていますが、この実験は昭和50年から始まり当初は応用化学科所属の工業化学実験室を借用し、応用化学科の学生と共に実験を行っていました。昭和55年に

56号館4階に小さいながらも今の実験室を構え、現在に至っています。また卒論・修論実験でも当実験室を使用し、いろいろな研究室の学生さんが日々実験に奮闘しています。(この場をかりて！他の研究室の学生さんも実験室を使用しますので、実験終了後は整理・整頓に御協力を、特にドラフト内)

学生実験では、高学年の専門実験を行っており‘学生に考えさせる実験’をモットーに学生一人一人が器具を準備し・組み立て実験を行っています。そこで実験室側では、学生実験がスムーズに行なわれるように心掛けて

います。

卒論・修論では、化学科の学生以外にも他学科の学生がたくさん測定依頼や分析相談に来ますので、学生といっしょに考え、一番よい条件でデータが取れるように日夜頑張っています。しかし、他学科からいろいろな学生

がいろいろな分野のサンプルを持ってきますので、測定に四苦八苦し大変勉強になっています。また学生からも学ぶ事が多く、このことがいろいろな学生にフィードバックできればと思っています。

学部生の声

● 1 年生

今年、僕は多くの大学を受けたが、そのどれも「化学科」ということで受験した。もちろん、化学が好きだからだったが、早稲田の場合は、それよりも「定員三十名」という少人数なところが気に入った。四、五人と言われるとちょっと閉鎖的だし、何百人もいては居心地が悪い。化学で将来どうなるなどということは分からないが、何となく機械に行くよりは、少人数でみっちり化学をやる方がいいなと思ったのだ。

化学科の特徴は、実験や専門科目より、この少人数にある。事実僕は、まだ入学して二ヶ月だが、大部分の人と知り合いになった。先輩の中には、小中学校の同級生の兄貴や、高校の部活の先輩がいたりして、うーん世間は狭いと思ったりするが、とにかく、アットホームなのが化学科のようだ。

化学科の人は、みな真面目だ。僕が大学に来て驚いたことの一つに、みんな勉強しないということがあったが、見てると化学科の人はよく勉強し、テストなども、むしろ頼られる存在になっていることが多い。ただ、その分地味だなーと感じる。それと、学年が上がるにつれてどうしても化学科にこり固まって内輪で集まるが多くなるのではないかな。

僕は、高学年になって専門が多くなっても、なるべく化学科ということにとらわれず、それどころか理工学部ということにも束縛されずに生活しようと思っている。できれば、みんなそうした方がいいと思う。少人数の学科は、どうしてもマンネリになってお互いに依存し合いがちになる危険がある。だからこそもっと個人レベルのものを大事にしたい。そして、化学科がただ仲が良いだけでなく、新鮮な関係を保ち、さらにみんながそれぞれ様々

な角度から同じ現象を観察できる、三十人寄れば文珠の知恵みみたいな集団になればちょっとスゴイと思う。(古橋 崇)

● 2 年生

正しい理論物理学通論の受け方。

7月*日() A: ねえ、今日理物の授業でた? B: うん、出た出た。A: やったー。悪いけど、ノート貸してくれない? B: いや、ずっとレポート書いていて、何にもノートとっていないよ。A: そうなんだ、そろそろ試験だから情報を入手しなくては。

7月○日() A: あの一、理物は何をべんきょうすればいいんですか。優秀な先輩: 授業出てるか? A: いいえ、全く出ていないんですけど、出ないとまずいんですか? 優秀な先輩: いや、出る必要は全くない。ナーミン(並木先生のこと)が書いた本をやるだけでいい。

7月◇日() B: おもしろそうな本借りたよ。A: なんていう奴? B: これ「物理数学の直感的方法」で、ここ読んでみ、「・・ベクトル解析と言うのは、まずラグランジュアンという訳の分からないものが出てきて、なぜかそれが‘T-U’というものであり、・・・で最初から最後まで分からないという人がほとんどというのが実状のようである。」A: うーん、まさにその通り! さっぱりわからないもんね。

7月△日() 何と試験当日 A: よう、勉強した? B: いや全然してないよ、今日よろしくね。あんなに、無機化学見せたじゃん。A: OK! OK! ばっちしだから!(実は全く勉強していない)

そして、試験! Aは全く分らず30分出てしまう。

B: おまえに偉そうなこと言ってんだよ、見せても出てないんじゃない。先輩: どうだ、理物できたか? A: いやあ、ほとんど出来ませんでした。先輩: まあ、そんなも

んだ。あの試験は参加することに意義があるんだよ。案ずることはない。

本当にこんなことで良いんでしょうか??

● 3年生

サチコに起こされたのは、七時五十分だった。まだ雨は止んでいなかった。私は彼女にラヴリーのかつお味をやり、熱いシャワーに入って髭を剃った。V8を飲みながら朝刊を読んでいると、もう「おはようジャーナル」がはじまった。私はクリーニングから戻った白衣を鞆に入れ、マンションを出た。仙台坂をおりてどちらに曲がるかまよったが、天現寺でガスを入れるため、右折した。明治通りはすいていた。意外にも「分析化学概論」に間に合った。

「都市地域計画論」は相変わらず経済学的側面からの考察で、つまらなかった。54号館を出ると、雨はあがっていた。私は、明治通りを歩いて「長生庵」に行ったが、満席だったので、「甲州屋」にもどった。彼女は紫のポロのポロシャツを着ていた。ここに来るビジネスマンの多くが彼女に好意を抱いているようだが、私は彼女のマニキュアが嫌いだ。そばは、予想通りゆで足りないものが出てきた。私は後悔した。

「赤外吸収スペクトル」の実験がおわったのは、三時過ぎだった。56号館を出ると、また雨が降っていた。私は五時半まで学読で勉強してから学校を出た。明治通りは混んでいた。表参道に駐車し、「つる岡」で天ぷら上定食を食べたあと、散歩しながら骨董通りへ向かった。島田洋書をのぞいたが、面白いものはなかったので、少し早かったが、ブルーノートで並ぶことにした。

悪くないステージだった。私はメリットライトを吸いながら車にもどり、四谷セイフー

へ向かった。野菜、缶ビール1ダースとバーゲンのワインを三本、コーヒー豆、フランスパン、そして大ふんばつして、サチコのためにフリスキーモンブチを全種類買った。

マンションにもどったら、頂度「新NY者」が終わるところだった。明日は講義がないので家でゆっくりしようなどと思い、私は床についた。——なんて、ほんの冗談です。

● 4年生

ガタン。エレベーターが開いた。うーん。いつもこの匂いをかいで私の一日は始まる。

「あうっ！（おはよう、の意）」彼は、昨日も徹夜をしたらしい。徹夜をしたかどうかは、彼の目とひげをみれば一目瞭然だ。彼は週に何日かは徹夜をする。はたと不思議に思うことがある。彼の家は、いったいどこなのだろう？ いっそのこと学校に住んでしまった方が便利ではないのかと、いらぬ心配をする私だった。私も早く、彼のように一人前(!?)に徹夜のできる人になりたいものだ。

今年も、野球大会が行われた。去年は、同学年同士で最下位争いをしてしまった私たちが、今年各研究室に分かれての参加となった。なんと、昨年とはうって変わって、みんな大事な役割を果たすまでになっていた！何が彼らをこうまで変えたのか？ どうやらこの日のために特訓練を受けていたらしいとの情報も入ってきている。

研究室に入りたてのころは、何かと戸惑いがちの私たちだったが、今ではすっかり溶けこんで、楽しい(!?) 研究生活を送っている。

うーん。今日は、いったい何が昨日と比べ進んだのかと頭をかき上げながら、私はエレベーターへと足をむけ、一日をおえる。

「卒業生短信」

卒業生の方からのお便りを御紹介します。なお、かっこ内のお名前は旧姓です。

第一期

横田昌明：昨年四月より慶応の外科に帰局致しました。

第二期

黒木俊夫：2年間の大阪大学派遣が終了しま

した。

山田均：昨年の5月より現職場に転勤いたしました。医薬品の臨床開発を行っています。

渡邊雅一：昨年(1988年)十月より、アメリカ合衆国に設立されました合弁会社に出向いたしました。会社はシカゴ郊外、オヘア空港のそばにあります。5年くらいいることになりそうです。学会等でおいでの際は、おたちよりください。

第三期

安藤克則：電話番号が少し変わりました(0486-51→048-651)。

池山(小宮)永津子：6月には子供が3人になる予定。目下子育て最前線です。

第四期

青木(鈴木)恵：昨年(S63)8月17日に長女の絢佳あやかが生まれました。育児、家事、仕事に多忙な日々を送っています。

小又昭彦：1月29日に結婚しました。

第五期

小林知重：S63.9.14に長女(貴音……たかね)が生まれました。

澤田信吾：去年母校(米子東)に転勤となり、現在化学を教えています、つくづく学生時代遊んでしまったなあと感じております。

庄司和夫：相変わらずポリウレタンをいじっています。化学とはいかに経験がものをいう世界かと痛感するこのごろです。

鈴木穰：S63年4月より東京本社(昭和電工)勤務となりました。

須藤芳明：4月22日に引っ越しました。ようやく部屋の中も落ち着いてきました。

宮田信郎：電話番号8701→8707に訂正願います。

山岡(時友)康子：育児と仕事におわれ、1日はなせ24時間しかないのだろうなど考える毎日です。親の偉大さを痛感しています。

第六期

立川裕之：従来と変わりありません。新製品の研究開発(光硬化エポキシ樹脂)に従事しております。

百瀬浩：63・10・30に長男渉わたるが生まれました。

第七期

重野信一：昨年(1988年)4月、沖縄から福岡へ移動。入社6年目で3ヶ所目の任地です。その土地に慣れたかと思うと動かされるのでたまりません。昨年9月から今年1月にかけて天皇病状取材で4ヶ月の東京出張しました。久しぶりの東京に感激。

寺田泰比古：化学科の卒業生としては初めて医博(免疫学)をとり、現在は阪大・微研、岡山博人教授の元で細胞の癌化、発癌遺伝子、癌抑制遺伝子を中心に分子生物学的手法で研究を続けております。米国からのポスドクも3人おり、よくぞこれだけ優秀な人間が集まったと思うような、梁山泊の研究室で第二の利

根川進目指して、研究三昧の日々を送っています。

第八期

竹村佳昭：社内での部署が変わり、ようやく化学との関係を復活させることが出来ました。

平塚光範：相変わらずの毎日です。多田研のときより忙しいです。

山崎(清水)秀子：翻訳という、一人でやらなければならない仕事の孤独に耐えかねて(?)、1988年7月より特許事務所で外国関係をやっています。

横山寿敏：89年4月から学術振興会特別研究員として名大へ移ります。

第九期

伊藤信一：現在、4MDRAMさらには16MDRAMに関する研究に従事しつつも、スキーへの情熱を燃やし続けています。

大草洋：仕事の関係で高橋先生のお世話になっています。

大矢淳子：住所の郵便番号と番地が変更になりました(〒272-01→〒279、16-25→4-16-13)。

川口淳くま：88年6月26日に結婚しました。妻孝予(S41.4.14生)両親と同居しています。

十時信太郎：「平成元年度よりこの和歌山研究所を花王におけるKey chemicalsおよびKey technologyの先端基地として位置づけることになった」という所長の話を聞いていると、ふと「和歌山だからキイなのか、それとも紀伊だから和歌山なのか」という、まことに奇異な考えが頭をよぎった……。

長谷川敦子：お世話になってる先輩がまたひとり肝臓病でたおれてしまいました。(注：酒のせいではありません) いったい我々の仕事はどうなっているのだろう汗

村田直樹：3月に二世誕生の予定です♡

芳尾創：62年4月結婚し移転しました。

第十期

美野真司：茨城研究センターで材料研究に没頭する毎日です。専門分野も変わり奮闘中です。

依田桂一：富士はとてもいなかで、都会をなつかしく思うこのごろです。

第十一期

梶谷英輝：有機溶剤の芳りから解放され、2年がたちました。エジンバラにて株式のグローバル運用の勉強をしております。

後藤浩之：4月21日まで四谷の中央研修センターで研修を受けています。まだまだ学生気分が脱け切れません。

境野佳樹：寮の4つ隣には大関さんがいます。お陰で日あたりが悪くて……！！

戸倉和志：就職が決まりました。早大→東工大の核弾頭も、今春からはサラリーマン。いつまで続くか見守っていて下さい。伊藤正美同様、これからもよろしく。

村川秀樹：ただいま、SSで実習中です。

横井由里江：来年（1990年）2/12に結婚します（ご存じでしょうが）。

稲化会会計報告

1989. 11. 13現在

【収入の部】	63年度繰越金	1,848,638
	会費	612,000
	計	2,460,638

【支出の部】	印刷費	243,700
	消耗品費	3,115
	通信費	88,580
	雑費	18,390
	計	353,785

次年度繰越金 2,106,853
(単位・円)

お 願 い

- OBの方々の消息等のご連絡をお願いいたします。また、自由投稿（小説・随筆あるいは漫画などでも結構です。）や新企画等も募集しています。

〒169 新宿区大久保3-4-1
早大理工学部 化学科事務室気付

- 稲化会費を払いましょう。
正会員 1,500円、学生会員 750円、なお終身会費は30,000円です。
払って安心、終身会費…

第十二期

大竹伝：神津の海は青い！！

小山真也：赤坂支店融資課で8カ月間働いたのち、システム第二部東京開発第七課に転勤になりました。主に債券ディーリングのシステム構築をやる部署なのですが、知識がまったく無いので3月までは研修です。

高橋俊夫：河川中のリンの挙動を追うことをテーマにしています。川から引き上げてくる試料のキタナイのなんの。あいかわらず、きれいな実験とは無縁のようです。

前田和彦：プラプラしてます。ウフッ。

稲 化 会 役 員

会 長	高宮信夫		
副 会 長	長瀬 裕		
幹 事	井口 馨		
評 議 員	井口 馨	伊藤紘一	
	伊藤礼吉	関根吉郎	
	高橋博彰	高宮信夫	
	多田 愈	新田 信	
	松本和子	長瀬 裕	
	矢野圭一	中山 匡	
	小又昭彦	井上国見	
	宮田信郎	百瀬 浩	
	小林慶裕	宮野浩行	
	伊藤信一	塚田光男	
	境野佳樹		
	常任委員	会計 新田 信	
	庶務	松本和子	
	学生幹事	M 2	小西隆太郎 湯沢哲朗
M 1		朝倉徹也	
B 4		泉千英子 植田佳代子	
		神崎昌之	
B 3		安久津良恵 失島 隆	
		岡美由紀 谷口浩和	
B 2	新井庸子 須藤雅之		
	山澤直晃		
B 1	飯田直人 上杉有紀		
	志賀律子 高橋 誠		